

会 長 あ い さ つ

宮崎県校長会会長 会長 近藤 啓次郎

陽春の折 ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

令和6年度の宮崎県校長会会長としてご承認をいただきました宮崎市立本郷小校長の近藤啓次郎です。

令和6年4月1日付教職員人事異動により、小学校38名、中学校28名、義務教育学校2名の計68名の先生方が採用または教育委員会からの転入として新たに校長先生になりました。この度の校長就任を心よりお喜び申し上げます。これまでに培ってこられた経験と力量をもとに、新たな感覚で学校の経営にご尽力くださいますようお願い申し上げます。

さて、国の第4次教育振興基本計画が令和5年6月に策定されました。本計画の基本方針の一つとして、「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が掲げられています。ウェルビーイングとは、どのようなものなのでしょう。文部科学省のホームページをみると、「身体的・精神的・社会的に良い状態であることを表すもので、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含む概念」と示されています。日本社会に昔から根付いている「調和と協調」。これらの精神を大切にすることによって、児童生徒の幸福感、将来にわたる期待感等を高めていくということであると理解しています。

また、本計画には、児童生徒のウェルビーイングを高めるために、先生方のウェルビーイングを確保することが必要であることが明記されています。学校における働き方改革をさらに推進し、先生方が児童生徒と向き合う時間を確保すること、先生方が安心して働くことのできる職場環境を実現すること、そして、先生方自身がワークライフバランスを大切にし幸福感を得られること。今後の学校経営の視点として欠かせないものが「先生方のウェルビーイング」であると考えます。

そのうえで、宮崎県校長会として最も重視すべきことは、「校長先生方のウェルビーイング」であると強く認識しています。年々、校長先生方を取り巻く環境は厳しさを増しています。様々な場面で「校長のリーダーシップで〇〇を推進せよ」という話が出ます。一方で、講師不足は深刻であり、年度当初に十分な数の学級担任を揃えることのできていない学校も複数ある状況です。

宮崎県校長会は、校長先生方の声を相互で聞き合い、校長先生方が抱える負担を少しでも軽減していく、そのような取組を進めていきます。なによりも校長先生方が「笑顔で校長職を楽しむ」という当たり前のことを実現させていきたいと考えます。

そのために、宮崎県校長会は、これまで以上に県教育委員会、市町村教育委員会と具体的に連携をして、一体となって取り組んでいきます。さらに、私たち校長同士が、今まで以上に、連帯感、結束力を強化していきたいと考えます。情報交換や相談ができ、助けあえる仲間がいる校長会。そのような校長会でありたいと願っています。校長が、自分一人で問題を抱え込むことなく、県内331名の会員が心を一つにして、「校長のウェルビーイング」を実現していくことを重視してまいります。校長先生方、本年度もどうぞよろしくお願いたします。